

# 市民病院だより

## 医療用放射線（X線）被ばくについて

診療放射線技師 津田増夫つだますお

「2日前に他の病院で胸のレントゲン撮ったけど、大丈夫？」  
 というような聞かれることがあります。その時は、不安を与えないよう「大丈夫ですよ」や「経過観察のためです」と説明しています。しかし本当に大丈夫でしょうか。

放射線は目に見えませんが、蛍光作用、透過作用、電離作用などの性質を持っています。医療用放射線はこれらを利用して



ところで、私たち日本人は、宇宙や大地、食べ物などから、1年間に平均2・1ミリシーベルト（ブラジルのガラパリでは、10ミリシーベルト、世界平均2・4ミリシーベルト）の自然放射線を受けています。

「100ミリシーベルト以下」の放射線の影響では、がんのリスクが実際に増えるかどうかははっきりしていません。あつたとしてもタバコや酒、食事などの他の発がんの原因に隠れてしまう程度である、とされています。

また、ある一定の期間が経つと傷ついた細胞は修復されますので、胸部撮影（約0・06ミリシーベルト）や腹部CT（5〜30ミリシーベルト）などの検査を繰り返し受けても放射線の悪影響は出ません。この放射線で、がんが発生し、死亡する確

率は、喫煙によって肺がんや心疾患で死亡する確率よりもはるかに少ないのです。

ただし、女性は妊娠初期の場合のみ胎児に影響を与える可能性があります。1回の放射線検査では奇形や精神発達障害は発生しませんが、念のため、骨盤CTや注腸検査などは、妊娠初期には、避けられた方がよいかと思えます。

それでは放射線検査のメリットとは何でしょうか。それは、病気やけがを迅速・正確に見つけ適切な治療を受けることだと思います。特に不具合が見つからなかったとしても、「悪い病気かもしれない」という不安を解消できるというメリットがあります。また、病気の早期発見や治療効果を確認することの方が患者さんにとって有意義です。放射線検査は、痛みや苦痛を伴わず検査ができるのです。

さらに、我々放射線技師は、極力被ばくを抑える努力をしています。例えば照射野を狭くし

たり、撮影条件を抑えたり、透視使用時は、照射時間を短くするなどの工夫を行っています。放射線機器自体も医療被ばく低減装置の企業努力もされています。安心して検査を受けてください。

### 糖尿病食事を開催

日時 11月8日(金)

11時〜12時30分予定

場所 小城市市民病院

3階研修室

定員 先着20人(予約制)

参加費

500円(食事資料代)

内容

・糖尿病の話

・糖尿病食の試食

担当

・糖尿病療養指導士

・管理栄養士



### 時間外受診をされる人へ

急病などでの時間外受診の場合は、必ず電話で宿日直医師の担当診療科をお問い合わせください。専門外の疾病の場合は、診察できない場合がございますのでご了承ください。

【問合せ】小城市市民病院 ☎ 73・2161

ホームページ・アドレス <http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>